

## 会 議 録（要 旨）

会 議 名	第11回武蔵村山市観光施策検討協議会
開 催 日 時	平成23年12月13日（火）午前9時40分から午前11時10分まで
開 催 場 所	市役所4階401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：溝尾良隆、高橋敏彦、古屋勤、高橋昭、乙幡章吾（代理 波多野）、 小林充子、田村崇寛、乙幡弘、鳴川和広 欠席者：高橋茂明、江村信彦、佐保満和、柳澤有三、青柳真紀子、乙幡清次、 嶋田一成 事務局：市民生活部長、地域振興課長、地域振興課観光グループ主査、 地域振興課観光グループ主事井上、農政グループ主任 委託業者：日本コンサルタントグループ（川本）
議 題	(1) 武蔵村山市における観光資源の活用方法について (2) その他
結 論 (決定した方針、残 された問題点、保留 事項等を記載する。)	(1) 武蔵村山市における観光資源の活用方法について (2) その他 次回検討協議会の日程は、1月17日（火）午後2時からとする。
審 議 経 過 (主な意見を原則と して発言順に記載 し、同一内容は一つ にまとめる。)  ○ 委員 ● 事務局	(1) 武蔵村山市における観光資源の活用方法について ○ 資料（武蔵村山市の地域観光資源）には分布図があり、4段階評価がされて いる。これを見ると食べるものが南、文化財は北に多く分布しているが、 市の北側に来た人をいかに南側に来させるかという課題が読み取れるのでは ないか。なお、資料7ページ「市の食べ歩き」の一覧はもっと増やした方が よい。 ● 資料の4ページと6ページの分布図を合わせて見ていただきたい。 ○ この資料は、観光資源の分類のスタイルの方向性が出たということで見 るとよい。最近のカフェ（スウィーツ）の人気の高いのもっとあるのでは ないか。 ○ 五日市では、町を紹介する映画が製作されたが、取り上げられない店舗か ら不満が出た。 ○ 行政ではなく、10人程度の仲間を集め地図を作ったことがあるが、1回 作ってそれで終わらないことが必要である。満点でなくとも良いので、フィ ードバックが必要である。 ○ 組織の問題があると思うが、行政がどこまでやっていくか、民間（市民） がどう参加し横の繋がりを作るかが重要であり、こうした活動は目的を絞っ たものが必要である。 ● 市は来年度産業観光課を設置する予定であり、商業と観光との横の連携が 必要であると考え。横をつなぐ組織をつくり、組織に委ねることも必要で あると考えている。 ○ 形骸化することは避けなければならない。商売する人が積極的に参加する ことによって、ものが言える組織になる。 ○ 埼玉県の北本市では、市民が1,000人以上参加し、観光まちづくり協会を 作った。市の田んぼをビオトープにして17年経つ。本市でも観光まちづく り協会のような組織をつくるべきである。 ○ 本市のうどんの会の現状であるが、設立して6年経つものうどん屋の者 が会長ではない。市民がうどんをPRすることで、武蔵村山を他地域に発信 し、まちづくりをしていく組織として活動している。 ○ 本市の観光資源には、広域で認知されているものが少ない。考え方を換え、 全市的な認知度を高めていけばよいと考えある。いきなり広域は難しいので はないか。 ○ 市内に店舗は沢山あるが、入れ替わりが激しい。

- 資料（武蔵村山市の地域観光資源）を基礎とし、定番、歴史、時期別に作成することが必要である。定番コースとは、この道を辿ると楽しいと思えるものであり、テーマ、季節別、時期別に作成する。テーマの設定には知恵が必要であるが、季節別はルートを作るのはどうか。また、時期別は数か月前から情報提供が必要である。三楽荘は見学できるのか。
- 村山中央病院の所有であり、誰もが見られる訳ではない。
- 本市のガイドの養成は、どのような状況か。全国的にボランティアガイドは増えている。定着したと考えてよい。
- 奥多摩町では、観光や登山のガイドの会があり、会員は50人以上いる。
- 東京都にもガイド検定があるが、ガイドをやりたい人向けにガイドの技術向上の講座がある。
- 観光情報の発信について、市ではHPや市報、イオンモール内に情報館という施設を持つが、十分でないと思っている。本市のPR方法や認知度が低い地域ブランドへの今後の対応について協議されたい。
- HPにしても紙媒体にしても、まず観光情報を作ることが必要である。
- 検索し、市のHPに行きついたら、そこに窓口やプラットフォームが必要である。
- 千葉県鴨川市のかもナビは商工会が作成しているが、プラットフォームを作ったのは、神社の宮司であり、千葉大在学時にほぼ一人で作成したものである。千葉県からも好評を得ている。
- 今はネット上でのPR等はやりやすくなっている。問題はページをいかに集めるか、そして最終的に情報を各主体がどのように発信するかが重要である。
- ネットの問題は、検索すると情報が絞られてしまい、俯瞰できないことである。
- 「じゃらん」の弊害であるが、1件1件のPRが目的であり、互いに競争させているため、全体を抑えて個別に見ることができない。埼玉県の深谷市では、農業関係者が観光との連携をしている。
- 本市には、交通のアクセス方法のわかるものや交通の案内図が必要である。資料のプロット先に市民が歩いて行けるだろうか。
- 奥多摩、青梅間の移動に利用できるレンタサイクルがあり、50台程度設置されている。
- 本市では拠点を作るのが難しい。かたくりの湯や市の南にある公的施設を拠点にしても、その結びつけが必要である。
- イオンモールには毎年1,000万人の来場者がある。イオンモールを利用するのはどうか。
- 市外の人の歴史的な興味の対象は何か。
- 軽便鉄道跡のトンネルや自然ではないかと思うが、冬場の目玉が無い。
- 村山大島紬はどうか。
- 現在は、展示、販売のみである。織り手は市内に1人程度で、その他は市外に住んでいる。
- 観光客のターゲットの設定が必要である。
- 資源ごとの区分でターゲットの設定ができるのではないかと。桜祭りは開催しないのか。
- 平成2年に1回のみ開催したことがあるが、開催時期と開花時期が一致しない等、開催が難しい。

(3) その他

- ① 次回以降の検討会の日程及び内容について  
 次回の日程は、1月17日（火）午後2時からとし、報告書(案)の検討を

